

研究課題

費用面から検討したDupuytren拘縮の治療法

—手術治療 vs コラーゲナーゼ注射治療—

研究の意義、目的

本邦におけるデュピュイトラン拘縮治療は手術治療が主流であったが、2015年11月よりコラーゲナーゼ注射治療が保険適用となり、手術との成績を比較する報告も増えてきているが、費用面や入院日数・社会復帰までの日数を含めて「手術治療と注射治療を比較」した報告はありません。

今回の目的は、手術治療と注射治療の間で、①費用②治療成績③仕事復帰時期等を比較し、注射治療のメリットを検討する事です。

研究の方法

対象は2008年から2016年の間に、当院で手術をしたデュピュイトラン拘縮29例と注射治療を行った26例のうち、医療費免除患者を除いた各28、24例です。

これら2群に対し、電子カルテにて後ろ向きに調査し、治療後一年以上経過した後のMP関節伸展角とPIP関節伸展角、再発件数、満足度、そして治療前後の総保険点数、入院日数、仕事復帰に要した日数を調査し、比較します。

患者さんで、本研究へのご協力を希望されない場合は下記にご連絡下さい。その他、ご質問などがございました場合も、遠慮なくご連絡下さい。

研究機関名

名古屋大学

連絡先

名古屋大学医学部附属病院手の外科 西塚隆伸

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2957 FAX 052-744-2964